

アライグマの地域別行動生態に応じた農業被害対策

経営高度化研究室 松本 哲朗

背景

アライグマの初の目撃事例は、平成 21 年の萩市においてである。以降、中山間地域のみでなく都市部にも分布拡散し、県内全域で農業被害が発生している。

目的

行動範囲や移動特性を把握することで、農業被害の軽減に向けた効果的な防護、捕獲、生息地管理対策を図る。

具体的な成果

1 中山間地域における行動生態（萩市平山台）

(1) 自動撮影カメラの捕捉数による利用場所の把握

季節別の利用場所は、夏季は果樹園と耕作放棄地、秋季は耕作放棄地・水田・家屋、冬～春季は廃屋・水田・山地栗の周辺と明確に異なる（図 1、2）。

(2) GPS ポイントデータによる行動特性の把握

時間帯による行動特性は、日中は廃屋や山林内を休息に、夜間は山林・河川・耕作放棄地を移動に使う。また、主な利用場所は、廃屋・耕作放棄地・河川・果樹園・水田付近の草地である（図 3、4）。

(3) 中山間地域の農業被害対策

中山間地域では、森林と河川を面的に移動し様々な場所を利用する。そのため、防護は果樹園ごとの電気柵設置、捕獲は季節により果樹園周辺の森林と廃屋・耕作放棄地周辺の河川へのワナ設置、生息地管理は果樹園周辺の廃屋・耕作放棄地の除草が有効である。

2 都市部における行動生態（山口市）

(1) GPS ポイントデータによる行動特性の把握

都市部においては、雄のデータは夏季と秋季の計測しかないが、季節別の移動距離/日は雌より雄の方が長い。雌雄それぞれにおいて、季節間の移動距離/日に差はない（図 5、6）。

(2) 都市部で農業被害対策

都市では、河川を中心に線状に移動することから、防護は水路近くの農地の電気柵設置、捕獲は人が入らない河川内の草むらへのワナ設置、生息地管理は廃屋・耕作放棄地・河川周辺の除草が有効である。



図 1 ブドウ園内での自動撮影
(2022.10.9 pm 8:03)

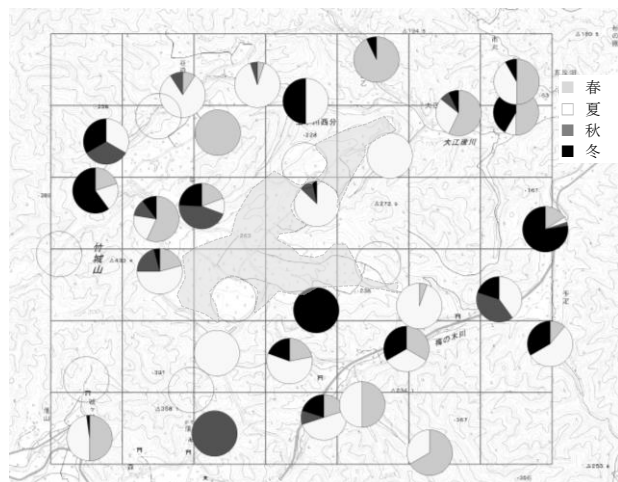


図 2 自動撮影カメラによる季節別の捕捉率 (500mメッシュ)



図 3 GPSを装着して放逐
(山口市榎野川上流)

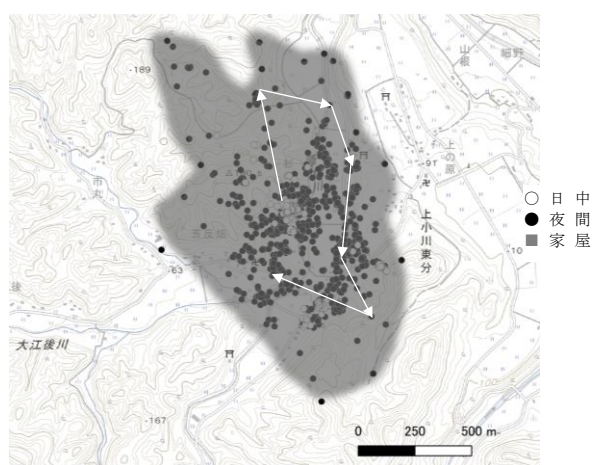


図 4 GPSポイントの日中と夜間のプロット (萩市平山台)

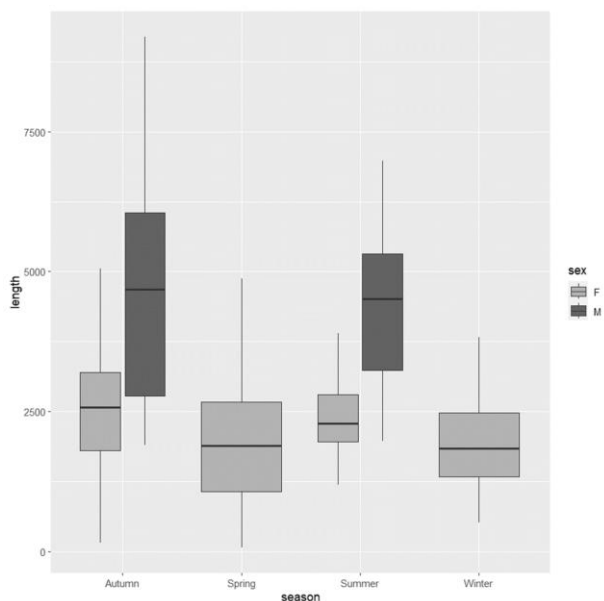


図 5 移動距離/日の季節別平均値の比較 (山口市)

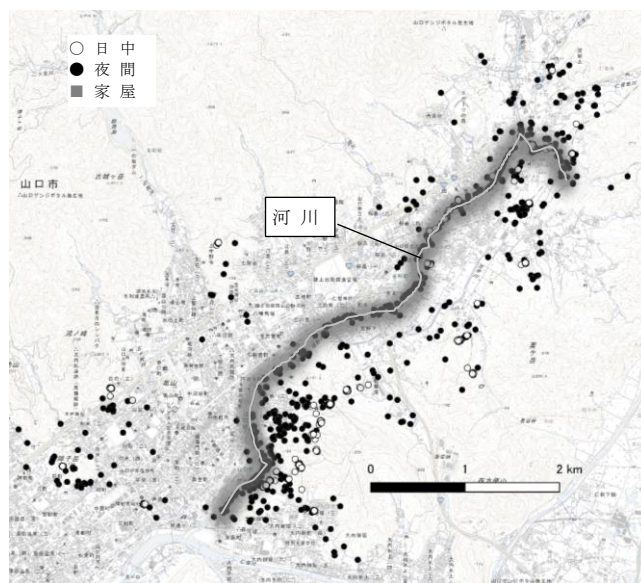


図 6 GPSポイントの日中と夜間のプロット (山口市)